

春分儀式

I O S 儀式魔術文書 VE02A

第1章	解 説
1	司官の配置
2	アストラル神殿の構造
3	身辺の準備
第2章	儀 式
	神殿への入場
	ウシャブティ
	マルクト神殿
	七つの封印
	サル・トーラーの顕現
	三つの名前
	PWの交換
	宇宙の主への賛歌
	サル・トーラーの帰還
	地上への帰還

THE OFFICIAL ORGAN
OF

I O S

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I O S

THE SPRING EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING

I O S ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に春分点の前後48時間以内に実施すること。

儀式内容は、メルカバ神秘主義のなかでも最も秘密にされてきたテキスト『マセー・メルカバ』を中心に構成された。

ユダヤ神秘主義において、メルカバ思想(メルカバ神秘主義)は後世に重大な影響力を及ぼした。七つのヘハロースをめぐる上昇と下降の実践大系は、ほぼ同時期にイアンブリコスが大系化した靈魂の上昇(アナゴーゲー)と下降(カタゴーゲー)の概念と同じく、人間のもつ有限性の束縛をいかに脱して、流出の源泉(隠れたものの、ヌース)に辿りつくかという試みである。

しかも、ヘラスの大系がほぼ一足跳びに源泉に上昇するのに対して、霊的階梯を設けて、天使たちの承認を獲得しながら、主に近づくメルカバ神秘主義の手法は、その実践技術の高さ、幻視の鮮明さが特徴であった。

しかも、実践伝承が絶えてしまったテウルギアと比較して、メルカバ神秘主義は、中・近世から現代にかけて、ハシディムの伝承のなかに、カヴァノースの技法に取り込まれつつ、色褪せることなく継承されている。

ショーレム(Scholem, G.)によれば、メルカバ神秘主義を支えるヘハロース文書は、次の八つに区分される(『ユダヤのグノーシス主義、メルカバ神秘主義及びタルムード期の伝承』)。

- 1 『エゼキエルの幻視』(RAIVTh IChZQAL)
- 2 『小ヘハロース』(HIKLVTh ZVTRThI)
- 3 『大ヘハロース』(HIKLVTh RBThI)
- 4 『メルカバ・ラバ』(MRKBH RBH)
- 5 無題のヘハロース・トラクト群
- 6 人相術及び手相術関連文書
- 7 『ヘハロースの書』(SPR HIKLVTh)
- 8 『マセー・ヘハロース』

1～3については、『ユダヤ神秘主義』(法政大学出版局、1985年)の冒頭でかなり詳細に解説している。

その他の書物については、そもそも文献自体が公刊されていないものが多かった。特に第5のトラクト群の代表として示された『マセー・メルカバ』(戦車の業)は、1942年にフラント・アルトマンが刊行するまでは、失伝した謎の書物であった。

ある意味で最も秘密にされてきたヘハロース文書が、この『マセー・メルカバ』である。同書は、中世期にヴォルムスのエレアザルが部分的に引用し、有名になったメルカバ幻視の奥義書であり、理論的背景を殆ど説明せずに、天界に上昇する方法論だけを述べるというヘハロース文書に特有の記述法で記されている。

それも無理のない話である。2～8世紀頃に成立したと推定される同書は、元来が口伝口承により保持されたもので、後世のハシドが文書に残そうと考えなければ消滅した虞がある。従って、理論的な細部は、別な暗喩の形で示された可能性が高い。

ショーレムは、1960年にアルトマンが典拠とした写本(ドイツのハシディムが保存していた14世紀の写本)を利用し、ヘブル語原文を公開した。

その後、シェファー、シュワルツらの献身的な作業により90年代までには原文及びドイツ語、英語訳で参照することができるようになった。

ショーレムは二種類の写本しか利用できなかったが、後に現存する五種類の主要な写本と四種類の副次的な写本を用いて考証を行ったシュワルツによれば、『マセー・メルカバ』の構成は、四部に分かれる。

第 部 (Section)

第 章 (§544-551) ラビ・アキバの「上昇」に関するラビ・アキバとラビ・イシュマエルの対話

第 章 (§552-553) 二つの祈り

第 章 (§554-555) 七つのヘハロース及びその天使たちの描写

第 章 (§ 556) ラビ・ネフニヤの短い教訓
第 章 (§ 557) ラビ・アキバの教訓
第 章 (§ 558-559) 橋とヘハロースの描写

第 部 (Section)

第 章 (§ 560-562) ラビ・イシュマエルがラビ・ネフニヤから学習した
「サル・ハ・トーラー（律法の王子）」実践の説明
第 章 (§ 563-564) 「三つの名前」に関する二種類の指導
第 章 (§ 565-568) ラビ・イシュマエルと顕現の天使の対話
第 章 (§ 569-570) 「サル・トーラー」の実践に関するラビ・ネフニヤ
からラビ・イシュマエルへの補足的教示

第 部 (Section)

第 章 (§ 579-582) ラビ・イシュマエルは智慧の天使の名前を学ぶ
第 章 (§ 583-585) ラビ・イシュマエルと顕現の天使の邂逅
第 章 (§ 586-591) ラビ・ネフニヤからラビ・イシュマエルに伝え
られた「五つの祈祷」

第 部 (Section)

第 章 (§ 592-596) ラビ・アキバとラビ・イシュマエルの対話
他の祈祷文及び天界の説明を含む。

何故、ここで『マセー・メルカバ』を強調するかと言うと、元来、実践に重きを置いたヘハロース文書のなかでも、奥義と目された詳細な指南書であるからだ。神秘哲学の実践を標榜する I O S においては、必読の一書と言えるかもしれない。

これらの文書が成立した時代には、『魔術バビルス文書』を初めとし、さまざまな混交文献が氾濫していた。もともと、ヘラス、ユダヤ双方よりも古く存在し、常に宗教問題の調停者として知られた古代エジプトの魔術的伝承（「マートの広間の秘伝」）には、天界の変遷及び門番との質疑応答という先駆的概念があった。『魔術バビルス文書』の一部では、それを卑俗な形で歪曲していた。

しかし、『大・小ヘハロース』では、ユダヤの宇宙論に従いエジプトの魔術的神話構造を翻訳し、「ヘカル」という新しい概念に結晶化させ、『マセー・メルカバ』では、より具象化しやすい近代的システムに再構築したと捕らえることができる。

ただし、先述したように、『マセー・メルカバ』は、東欧・西欧のハシディムの秘伝として継承されたため、上昇、自身の封印、天使との邂逅等を記述した原文書（Urtext）そのものであり、釈義、注解に該当する部分がない。

理論面については、使用するわれわれが補いつつ、正しい解釈を加えていく必要がある。

本テキストでは、校正済みの写本から「七つの封印」と「三つの名前（言葉）」を使用している。

『マセー・メルカバ』 第 章 抜粋（『オックスフォード原稿 1531』）

§ 563

ラビ・イシュマエルは語りき。A P R D S、顕現の天使（the Angel of the Presence）曰く。この秘儀を用いるものは、全霊を以て祈るべし。片言隻句も忘るるなかれ。（さもなくば）四肢は打ち砕かれん。次なる「三つの名前」を唱えよ。されば、われ降臨せん。

S D I R T h I N R I A I I B I A B I H V S V V T z D V P R V P
D C h M

§ 564

ラビ・イシュマエルは語りき。かつて、ラビ・ネフニヤ・ベン・ハ・カナーに尋ねたり。律法の公爵（S h R H T h V R H）の智慧はいかにして得られん。かれは答えり。汝、栄光の天使の発する「三つの名前」を力もて唱えるべし。

Z T z T I T z Z R Z I A L T h I T h T h V P I L T I R B T h
I P A A R C h R Z I O A O I Z V Z

祈るときは、（祈りの）最後に「三つの言葉」を発音すべし。

そは被造物が A R K S I V I、イスラエルの神を仰ぎ見るときに発するものなり。

G L I A I I A R D R I H A L Z K B B I B A

また、汝が他の祈り手を前にするときは、メルカバの車輪（G L G L I H M R K B H）が、栄光の玉座の前で歌を献じるとき発音せる「三つの言葉」を発音すべし。

H T z P Z I P A H P I A V G H V A S h B I B A

こは智慧の獲得なり。この言葉を発音せるものは誰でも永遠の智慧に預かる。しかし、万人がこれに耐えられるのか？モーシェはヨシュアに三つの言葉を書き送り、かれはそれを飲み下した。もし、汝がそれに耐えること能わずば、「英雄」の単語を印として刻印し、煩わされることなかれ。

Z P Q Q N I D R H V V V A H B A S h B V N Q N T B V H T z H R

I T H R D V H D R H V Z H S h B V N

そして、畏怖すべき父、A Z Q M P A V P V P I I D D R A V R N V Dを忘れるなかれ。智慧の強化と理解の栄光のために。

§ 565 . . . 略 . . .

§ 566

ラビ・イシュマエルは語りき。顕現の天使 P R Q R S が降臨する際、われは七つの封印をもち我が身を封じる。

聖なるかな汝、I I。智慧と洞察をもて、天と地を造りし者よ。汝が名は永遠なり。

C h I A V P S I S I P I I A V L V S M B I K I I T h N I I

そは汝が下僕の名前なり。

（七つの封印により、ラビ・イシュマエルは心臓を封じる。注：本行は『原稿 M 2 2』のみ）

A V R I S S S T h I I わが脚に。

A B G B G G わが心臓に。

A R I M T h I P A わが右腕に。

A V R I S T h S I I A H わが左腕に。

A B I T h T h L B G A R I I V D I V A L わが首に。

A V P A K Q I T R S S A C h D I D I D I H わが生命とすべての部分を守護するために。

A V P P T h I H V C h I V I V Z H V I H V T h I T h S わが頭上に。

R I R G V G 大いなるもの。H P I P H P 清浄なるもの。

H H I I V H H I H H H H 久遠の詠唱よ。

智慧の主を讃えよ。すべての権能は汝にあり。

聖なるかな汝、I I。無敵にして、至高、至上、大いなる支配者よ。

参考文献

- ・ ショーレム『ユダヤのグノーシス主義、メルカバ神秘主義及びタルムード期の伝承』
Scholem, G. "Jewish Gnosticism, Merkabah Mysticism, and Talmudic Tradition" The Jewish Theological Seminary of America, 1960, Philadelphia
- ・ シェファール『ヘハロース文書要綱』
Schafer, P. "Synopsis zur Hekhalot Literatur" -Text und Studien zum Antiken Judentum - No.2 J.C.B.Mohr, 1981, Tübingen
- ・ シュワルツ『古代ユダヤの神秘的祈祷 - マセー・メルカバの解析 - 』
Swartz, M.D. "Mystical Prayer in Ancient Judaism - an analysis of Ma'aseh Merkavah" -Text und Studien zum Antiken Judentum - No.28 J.C.B.Mohr, 1992, Tübingen

1 司官の配置

a 司官の指定

本儀式に必要な司官は、1人である。

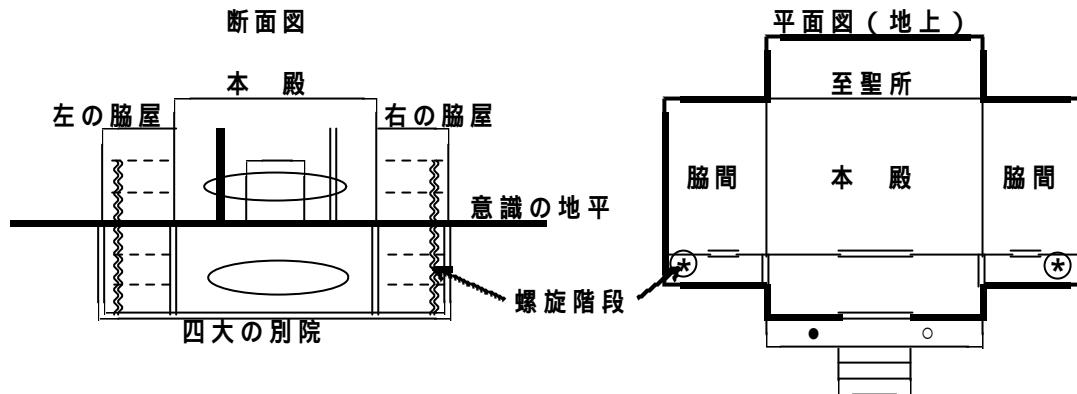
PRAECEPTOR (P C) 先導者

b サル・トーラーの召喚

四人の司官は、マルクト神殿で律法の公爵を召喚し、メタトロンの顕現たる大天使の長上が「肉の衣を去る」までは、実効上の神（天使を使役する者）として活動する。この場合「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

2 アストラル神殿の構造

本儀式においては、マルクト神殿の本殿を使用する。



3 魔術の教理及び技法的側面

a 七つの封印 (Z ' C h V T h M V T h)

封印 (C h V T h M) とは、羊皮紙に刻印された封印、あるいは古代においては封印の指輪として用いられた。「サル・トーラ法」では、テウルギア的神聖名を用いて身体の上に封印を置くことで、神聖の顕現から自らの霊体を保護するものである。

b 三つの名前 (G ' S h M V T h) と三つの言葉 (G ' A V T h I V T h)

名前 (S h M) と言葉 (A V T h) は、テウルギア的神聖名である。名前は直接的に神聖名を意味するが、言葉は兆しという意味も持つ。

「ヘブル語において「記号」や「文字」を意味する A V T h (オート) は、複数形になると2種類の変化をする。複数形として用いられるのは、A V T h V T h (オートート) 又は A V T h I V T h (オーティオート) であり、前者は「一般的な文字のしるし」であり、後者は「奇跡のしるしとしての神のしるし」を意味する」(拙稿『力の名前』参照)

4 身辺の準備

a 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。(家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等)、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

b シナリオ

シナリオ文書の一部、手軽に確認できる場所に置く。
自分以外のパートの台詞とト書をテープに吹き込んでおく。
神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。

c 直前の手順

開始する前に手を洗い(儀式的沐浴)、法衣(または身体を締め付けない服装)に着替え、L B R Pを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

第2章 儀式

参加者は、座ったまま目を閉じ、自分のアストラル的姿形を形成する。前方に光体を形成する。自らが輝く光の法衣を纏う様子を強く視覚化する。

光の法衣の着用が終了したら、沈黙し儀式の背後にある意味を黙想しつつ待つ。

あなたは、自分の光体の身体を立ち上がらせ、肉体を脱ぎ捨てたまま、前に進み光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとボアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたIOSの三文字が内側から光を發し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るPCが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」PCは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話的形式に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

PCは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。

兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

PCは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式を行う。

東に面し、開門の宣言を行う。

「ヘカス ヘカス エステ ベペロイ」

さらに、物見の塔の儀式を応用し、霊気を安定させる。

祭壇の南側に行き、南壁に背を向け、祭壇からランプを取り上げる。正面（北）、右（東）、左（西）と三方向にランプを振り言う。

「総ての幻影が去りし後に、宇宙の隠されし深みを飛翔する聖なる形なき炎を見るであろう。

汝、火の声を聞け」

次に振り返り、祭壇を背中にし、南に面する。白と黒の柱の彼方に荒涼とした砂漠が広がる。直立した奇岩なのか、風化した巨石建造物なのか分からない、小山のような石の柱の間に、蜃気楼のようなオレンジ色のサラマンダーが闊歩している。

押し寄せる熱波に直面し、自分の目の前に霊の能動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。

「B I T O M」

引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。

「A H I H」

L V Xサインを行う。

次に火の追儼の五芒星を描き、言葉を振動させる。

「O I P T E A A P E D O C E」

その中央に獅子宮のサインを書き、神名を振動させる。

「A L H I M」

PCは、フィロソファスのサインを行う。

「大いなる南の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。汝、南の物見の塔の天使よ」

祭壇の西側へ行き、西壁に背に盃を取り上げる。三方向に盃の水を注ぎ言う。

「最初に、火の技を治めし祭司は、荒れ狂う海に清めの水を撒かねばならぬ」

次に振り返り、祭壇を背中にし、西に面する。白と黒の柱の彼方に、次々と波頭の押し寄せる大海原が広がっている。白い波頭は、蹄の代わりに水掻きの生えた水棲の馬である。その鱗の生えた蒼い肌の上に、海の乙女たちが豊かな胸乳をさらして、手綱を御している。

自分の目の前に霊の受動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。

「H C O M A」

引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。

「A G L A」

L V Xサインを行う。

次に水の追儼の五芒星を描き、言葉を振動させる。
「E M P E H A R S E L G A I O L」
その中央に鷲のサインを書き、神名を振動させる。
「A L」
P Cは、プラクティカスのサインを行う。
「大いなる西の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。汝、西の物見の塔の天使よ」

祭壇の東側に行き、東壁に背を向け、香炉を取り上げる。三方向に香炉を振り言う。
「かくのごとき炎、進む《風》のなかにあらん。また、《声の似姿》を放つ形なき《火》、さらに声高に叫ぶ《渦巻く炎の光》のなかにもあり」
次に振り返り、祭壇を背中にし、東に面する。白と黒の柱の彼方に、丈の高いヒースの草原の緩やかな起伏が見える。その背後には黄塵と、流れ行く逞しい雲の連なりが広がり、黄色っぽい空の雲間には、半透明な存在の乱舞する様子が伺える。
自分の目の前に霊の能動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。

「E X A R P」
引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。
「A H I H」
L V Xサインを行う。
次に風の召喚の五芒星を描き、言葉を振動させる。
「O R O I B A H A O Z P I」
その中央に宝瓶宮のサインを書き、神名を振動させる。
「I H V H」
P Cは、セオリカスのサインを行う。
「大いなる東の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。汝、東の物見の塔の天使よ」

祭壇の北に行き、北壁に背を向け皿から塩をつまみ上げ、三方向に撒いて言う。
「暗き輝きの地界に屈み込むなかれ。そこには、背信の深みと、闇を纏う冥府王が不可解なるイメージに悦び、風猛き絶壁、黒く逆巻く深淵は、つねに光放たぬ形なき虚しき場に連れ去るものなり」
次に振り返り、祭壇を背中にし、北に面する。白と黒の柱の彼方に、峨々たる小暗い山脈が聳えている。緑の裾野には、無数の生命が満ちあふれているようだが、むしろ、黒い岩肌を晒した山肌に、煌めく金属的な光芒が散らついている。剥き出しの鉾脈の上をグノームの工具が叩いているのだろう。

自分の目の前に霊の受動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。
「N A N T A」
引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。
「A G L A」
L V Xサインを行う。
次に地の追儼の五芒星を描き、言葉を振動させる。
「E M O R D I A L H E C T E G A」
その中央に金牛宮のサインを描き、神名を振動させる。
「A D N I」
P Cは、ジェレイターのサインを行う。
「大いなる北の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。汝、北の物見の塔の天使よ」

祭壇の西に行き東面する。深紅の薔薇で霊の能動と受動の召喚の五芒星を描く。

「E X A R P A H I H
H C O M A A G L A
N A N T A A G L A
B I T O M A H I H」

続けて言う。
「神秘なる統一のタブレットの名前と文字において、われ汝を召喚す。
汝、生命の霊の神聖なる諸力よ」

花を置き、ヴェールを開くポータルサインを行う。

「われ汝を召喚す。汝、不可視の座に住まう天球の天使たちよ。
汝は宇宙の門の守護者にして、またこの神秘なる球の守護者なり。」

邪悪なるもの、均衡を失いしものを遠ざけよ。
永遠の神々の神秘の住居を汚さざるため、われに力と霊氣を与えよ。
われがその中に入り、神聖なる光の秘密を分かたため、わが球を清浄かつ神聖たらしめよ」

PCは、魔法鏡の内部の安定し、活性化した霊氣を徐々に変容させていく。
天使たちの降臨により、激発する直前まで高められた魔術師の意志が、神殿の外壁、すなわち拡張されたPCの魔法鏡の表面に、鮮やかな変幻する光を生む。それは虹のようにすべてのスペクトラムを輝かせる。それと同時に白色を基調とした魔法鏡の内部の霊氣が、徐々に赤化し、黄土色のぼやけた色調から、黄金の光を放つようになる。魔法鏡の表面の極彩色の光芒も、色彩の輪郭が溶け合うと黄金色にかわり、魔術師の霊氣に統合された。広間は、黄金の光に満たされた。

これらが完全に成し遂げられたら、神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

PCの霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。
兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち。姉妹は左側、北の壁際に立つ。

PCは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。
PC：「I O S の兄弟姉妹たちよ。春分の儀式を開始せん。」

PC：「七つの封印を光体に刻印せん。」

PC：「聖なるかな汝、II（ヨー）。
智慧と洞察をもて、天と地を造りし者よ。汝が名は永遠なり。
ChI AVP SISI PII AV LV SM BI KII ThNII
（カイ オープ シシ パーウ ラブ サム ビー キー タナイー）
そは汝が下僕の名前なり。」

PCは指を剣指をつくり、揃えた両膝に当てる。参加者もPCの動作に倣う。
PC：「AVRIS SStHII（アブリース ススティイー）
わが脚を封じる。」
全員：「わが脚を封じる。」

PC、参加者は剣指を心臓に当てる。
PC：「ABG BGG（アバグ バググ）
わが心臓を封じる。」
全員：「わが心臓を封じる。」

PC、参加者は剣指を右肩に当てる。
PC：「ARIM ThIPA（アリム サイパ）
わが右腕を封じる。」
全員：「わが右腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を左肩に当てる。
PC：「AVRIS ThSI IAH（アブリース サシ イアー）
わが左腕を封じる。」
全員：「わが左腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を首に当てる。
PC：「ABITh ThL BG AR IIV DIVAL
（アブース サル バグ アル ヨー ディヴエル）
わが首を封じる。」
全員：「わが首を封じる。」

PC、参加者は両手を胸の前で組む。
PC：「AV PAK QITR SS AchD IDID IH
（アウ バク キテル スス エイカド イダイダ ヤー）
わが生命とすべての部分を守護するために。」
全員：「わが生命とすべての部分を守護するために。」

P C、参加者は両手を頭上高く差し出しV字を形造る。

P C：「A V P P T h I H V C h I V I V Z H V I H V T h I T h S
(オーブ プター ヤーホー カイウー ヨォー ザハウ ヤーホー サイサス)
わが天蓋を封じる。」
全員：「わが天蓋を封じる。」

P C：「R I R G V G (リール ゴーグ)
大いなるもの
H P I P H P (ハーブ ヤーブ ハーブ)
清浄なるもの
H H I I V H H I H H H H (ハー イーウ ハーイ ハー ハー)
久遠の詠唱よ。
智慧の主を讃えよ。すべての権能は汝にあり。
聖なるかな汝、I I (ヨー)。
無敵にして、至高、至上、大いなる支配者よ。」

七つの封印を完成したP Cは、祭壇の西側から祭壇に向かい両手を広げて言う。

P C：「わが声を聞け。おお、主よ。
汝は、生成(ゲネシス)にして、始原(アルケ)なり。
名前なき、形なき者、万物の創造主、光と闇の主なり。
汝の真実の子、S h Q D H V Z I H (サクドゥザー)の祈りを聞き賜え。
汝が力を貸し賜え。
われは汝が光のなかで再生せんとす。
われは汝が光のなかで完成せんとす。
汝が天使A R P D S (アルパデス)は語れり。
三つの御名を唱えることなく、メルカバに至るなかれ。
そは、次なる名なり。
S D I R T h I N R I A I (サディル ティンリ アイ)
I B I A B I H V S V V T z (イバイアー ビホー スүүツ)
D V P R V P D C h M (ドゥバ ルアバ ダカム)」

P C：「汝は、われらの父にして、われらの母なり。
われらの栄光にして、われらの輝ける自己が顕現する。
そは本然の性、始原の光体なり。」

P C：「わが声を聞け。おお、主よ。
汝は、生成(ゲネシス)にして、始原(アルケ)なり。
名前なき、形なき者、万物の創造主、光と闇の主なり。
汝が律法の公爵S h R H T h V R H (サル ハ・トーラ)は語れり。
三つの御名を唱えることなく、メルカバに至るなかれ。
そは、次なる名なり。
Z T z T I T z Z R Z I A L (ザッツ ティズ ザルジエル)
T h I T h T h V P I L T I R B T h (ティス トゥビルティ ラブス)
I P A A R C h R Z I O A O I Z V Z
(ヤパー アルカル ジアー アイザズ)」

P C：「汝は、彗星より火を借り、光の戦を率いる者なり。
われらが足下に大地が見え、また天も見えるなり。
そは本然の性、始原の光体なり。」

P C：「わが声を聞け。おお、主よ。
汝は、生成(ゲネシス)にして、始原(アルケ)なり。
名前なき、形なき者、万物の創造主、光と闇の主なり。
汝が顕現の天使M L A K H P N I M (マラキ ハ・パニム)は語れり。
三つの言葉を唱えることなく、メルカバに至るなかれ。
そは、次なる名なり。
G L I A I I (グライ アイイー)
A R D R I H A L (アルダル ヤホエル)
Z K B B I B A (ザク ババイバ)」

PC：「汝は、夜明けの薄明にして、黄昏の薄明なり。
われらが影のはずれに来たとき、太陽はわれらの頭上にあり。
そは本然の性、始原の光体なり。」

PC：「わが声を聞け。おお、主よ。
汝は、生成（ゲネシス）にして、始原（アルケ）なり。
名前なき、形なき者、万物の創造主、光と闇の主なり。
汝がメルカバの車輪 G L G L I H M R K B H（ギルグリ ハ・メルカバー）は、
玉座の前で歌えり。
三つの言葉を唱えることなく、メルカバに至るなかれ。
そは、次なる名なり。
H T z P Z I P A （ハツ パジパ）
H P I A V （ハバ イアウ）
G H V A S h B I B A（ガホア セバイバ）」

PC：「汝は、月の秘薬たる光にして、太陽の秘薬たる光の光なり。
われらが玄妙なる物質の心的王国を越えるとき約束は成就せん。
そは本然の性、始原の光体なり。」

PC：「汝は、われらが主にして王、至高至聖なる霊なり。
汝、燦然たる神の光を身に帯びたる者よ。
汝は聖霊の天の父にして、宇宙の母なり、しかして、心の天の子なり。
われらは汝を召喚し、汝に満たされんとす。
汝、隠れたる者、H D I R I R V M（ハディリルム）！
この血に降下し賜え。
汝、本性の知らざれし者、A L R V Z I I I V I（エル ルズィー イヨー）！
この肉に降下し賜え。
汝、かくのごとき者、H G G B V B I H I H V（ハググブブ ヤー ヤオー）！
この骨に降下し賜え。
I H V S h H（ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー）
われらは戴冠せる王、天と地の支配者とならん。
I H S h V H（ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー）
われらは万軍の将、天と地の支配者とならん。」

祭壇の傍らにいるPCの上に覆い被さるように出現する巨大な天使の像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、律法の公爵（サル・トーラー）のテレズマ的姿形が融合し、再形成されてPCの霊的外形が急激に変化する。

PCが宣言する。

PC：「われは、聖なる五つの文字に表象される無敵の一者なり。
五界を結ぶは、われなり。
軸と輪を束ねるは、われなり。
われは光と闇の轆轤を回さん。」

PC：「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。
I a H a V a H a（ヤアー・ハアー・ヴァー・ハアー）
H e V e H e I e（ヘイ・ヴェイ・ヘイ・イエイ）
V o H o I o H o（ヴォー・ホー・イヨー・ホー）
H I H V（ヘー・ヨド・ヘー・ヴァウ）」

PCが宣言する。

PC：「大いなる周行をもって、祭壇に天の城を建立せん。」

祭壇を軸として周行する。

PC：「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。春分は到来せり。」

PCは、祭壇の東に廻り、西に向かってホルスのサインを行う。

P C：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」

P Cは、祭壇の西に廻り、東に向かってハーボクラテスのサインを行う。

P C：「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」

P C：「パスワードは交換された。」

全員が祭壇を取り囲む。

P C：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。
無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、
そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかに祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。

全員：「主よ。われらは自らを捧げん。わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！
聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！
聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！
光と闇の主よ。」

P C：「聖なる場に神秘なる逆周行を起こさん。」
左回りの渦が形成され、そのまま三度周行する。

P Cが発言する。

P C：「神秘なる逆周行は完成した。」

P C：「聖なる五つの文字に表象される長老たちよ。
I H S h V H（ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー）
万軍の将、霊の虚の場所に住まわん。
I H V S h H（ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー）
戴冠せる王、霊の虚の場所に住まわん。
光と闇の轡轡を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

P C：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。
主の聖霊は、森羅万象の上にあり、下にあり、内にあり、外にもある。
主よ、生ける霊と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。
律法の公爵は、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

P C：「人の子らよ。律法の公爵は、去れり。地上に帰還せん。」

P Cは《ヴェールを閉じる》サインを行う。

P C：「I H S h V HとI H V S h Hの御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

P C：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。（特別な手順は必要ない。）静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA
I O S
RITUALE DE
AEQUINOCTIO VERO A

IMPRIMI POTEST: I O S
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6
MARTIUS MCMXCX

春分儀式 VE 0 2 A

Copyrights © All rights reserved I O S 2002
2002年3月10日 I O S 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I O S の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンブル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I O S の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。